

日本学術会議主催 『サイエンスカフェ』

日 時 平成21年12月13日(日) 15:00～18:00

場 所 札幌市紀伊國屋書店1階 インナーガーデン
(〒060-0005 札幌市中央区北5条西5-7)

主 催 日本学術会議

ファシリテーター 斎藤 成也

(日本学術会議第二部会員、国立遺伝学研究所教授、
基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同自然人類学分科会委員長)

講 師 馬場 悠男

(日本学術会議連携会員、国立科学博物館人類研究部前部長、
基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同自然人類学分科会委員)

テーマ 「日本列島人を考える～骨とDNAから～」

定 員 50名

参加費 無 料

《テーマに関する概要》

日本列島には、数万年前の旧石器時代にはすでに人間が住んでいました。13000年ほどまえに始まった縄文時代が1万年続いたあとに、本州以南では弥生時代が始まりましたが、北海道では続縄文時代と擦文時代が続きました。日本列島に居住してきたこれら日本列島人の由来と変遷は、従来遺跡から出土する人骨の形態比較を中心に研究されてきましたが、最近ではDNAによる研究も進められています。

今回のサイエンスカフェでは、人骨研究の専門家である馬場悠男さんを講師にお迎えし、DNA研究の専門家である斎藤成也がファシリテーターとなって、骨とDNAから日本列島人について考えてみたいと思います。



左：縄文人頭骨とその特徴を表わすモデルさん

右：渡来系弥生人頭骨とその特徴を表わすモデルさん